

2 廃棄物リサイクルプロジェクト

可燃ごみの資源化

新しいリサイクル施設を整備

田原市は、全国の自治体に先がけて昭和 62 年から可燃ごみの資源化施設（リサイクルセンター）を導入していますが、現在、新たなリサイクル施設を渥美町と共同で建設しています。この施設では、家庭などから排出される可燃ごみを蒸し焼きにして炭化させ、産業資材や燃料として民間企業に販売します。

環境保全型農業の推進

家畜の排せつ物をエネルギー源に

畜産業が盛んなこの地域の課題として、家畜排せつ物の適正な処理があげられます。市内では、牛 2 万頭・豚 10 万頭・鶏 1 0 0 万羽ほどが飼育されており、大量に発生する家畜排せつ物の処理が畜産農家の大きな負担となっています。そのため、畜産農家と耕種農家との連携による環境にやさしい循環型農業の取り組みが進められており、すでに J A 愛知みなみが事業主体となって平成 14 年に大規模な堆肥化施設（田原エコセンター）が整備されています。今後は、家畜排せつ物からメタンガスを発生させ、そのエネルギーを利用して温室の電力や熱源とする取り組みを推進します。

3 エコエネルギー導入プロジェクト

地域資源の活用

太陽光・風力などを電力に

田原市では、早くから公共施設へのクリーンエネルギーの導入を積極的に進めています。これまでに風力発電 3 0 0 kW（1 基）、太陽光発電 96.05kW（7 施設）、ハイブリッドカー 3 台、電気自動車 1 台を導入しています。また、市民のクリーンエネルギー導入を支援するため、太陽発電システム設置や低公害車導入への補助制度（環境課 ☎23 局 3 5 4 1）を設けています。今後も、これらの施策を積極的に推進します。



電気自動車

環境共生まちづくりのモデル化

民間ウインドファームの建設を

三河湾と太平洋に面した渥美半島は、年平均風速が 8 m を超える場所もあり、風力発電に適した環境にあります。その特性を、大量の電力を必要とする工業や農業などの地域産業に活用するため、民間によるウインドファーム（大規模集中風力発電所）の建設を推進します。これにより、地域内でエネルギー自給の向上や、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの削減が見込まれます。